

【県大会敗退の翌年、全国大会金賞受賞した北高合唱部の話】

平成 22 年卒業/声楽家・ボイストレーナー

岩井翔平

【あのときの体験があったから、声楽家になったかもしれない】

みなさん、こんにちは。

平成 22 年卒業のテノール歌手・ボイストレーナーの岩井翔平です。

この度「岩井さんの東京でのヒストリーと、北高合唱部のヒストリーについて書いてほしい」と貴重な機会をいただきました。

思い返すと、私にとって北高合唱部の経験は宝物のような時間で、あの時があったから今があるかも知れないと思うことがしばしばあります。

せっかく頂いた機会ですので、少し昔の話をお話しさせていただきます。

おそらく北高のヒストリーだけでとっても長くなりそうなので、とりあえずその内容を書かせていただきます。

少し長くなるかも知れませんが、短い小説を読んでいるような気持ちで読んでいただけると幸いです。

【高一:全国大会常連校がまさかの県大会で終了】

●ピアニストとして入部

私は 2007 年、松江北高校に入学しました。

私が合唱部に入部したのは、最初はピアニストとしてでした。

顧問の先生から「コンクールでピアノ弾いてくれないか？」と頼まれたことがきっかけでした。

今となっては歌をやっていますが、中学生の頃の私は「ピアノの岩井くん」というイメージを同級生からもたれており、1日4～6時間練習するほど鍵盤楽器に没頭していました。

その評判が、高校の顧問の先生の耳にも届いていたようです。

このとき、若くて単純な私は、全国大会で、NHK ホールでピアノを弾いている自分をすでに想像し、即答でお引き受けさせていただきました。

●合唱部は毎年全国大会に出場している部活

ご存知の方も多いかもかもしれませんが、北高合唱部は全国的にも有名です。

私も入学した時「毎年全国大会に行けるのは当たり前」というイメージでした。

僕たち新生は、そんなことを疑うことなく、ぼんやりと入部しました。

●まさかの県大会銀賞…3年生の引退

しかし、入部してから僕たち新生も、部活の様子がおかしいことに気がつき始めます。

コンクールに向けて部活が上手くいっていないことを感じていました。

そして、いざ、コンクールに挑みました。

NHK 合唱コンクールで私もピアニストとして加わりました。

テレビカメラがぐいぐい私の手元を撮影してくる中でピアノを弾くことの緊張感は、今でも記憶しています。

しかし、結果、銀賞でした。

「ひょっとして今年は全国出場は厳しいかも」という空気は、なんとなく感じていました。

しかし、県大会敗退というのは、少なくとも過去数年聞いたことのない成績でした。

合唱部はコンクールが終わり次第、3年生が引退します。

本来、先の大会に進めば9月や10月まで一緒にいるはずだった3年生の先輩方が、まさかの8月に全員引退。これは衝撃でした。

あまりにもショッキングな結果に、その日そのまま帰ることができず、同級生の親友と夜暗くなるまで話し合っただのを覚えています。

しかし、この年の悔しさがあったからこそ、翌年全国大会で金賞を取るところまで頑張れたかも知れない、と感じています。

【高2:副部長に就任、全国大会出場だけを考えていた】

●2年生が役職を担うのが北高式。副部長に就任

ショッキングな成績をとって数ヶ月。秋になり、幹部交代になりました。

北高は3年生は受験に忙しいこともあり、部長などの幹部は、2年生になることに当時なっていました。

僕はピアニストとしてNHKホールで弾く夢が叶わなかった悔しさを忘れられず、悶々としていたところ、多分投票で決まると記憶していますが、副部長に就任しました。

●「日本一になれるかは分からないけど、日本一の練習を目指そう」

これは、当時の顧問が言っていた言葉で、15年近く経っても私が覚えている言葉です。

この年のエピソードは挙げればキリがないのですが、ひょっとしたら高校2年の頃の部活は、この言葉に集約されるかも知れません。

今ほど合唱にも発声に対する知識もなく、田舎の高校生だった私は、顧問のこの言葉を信じ、様々なことをやりました。

- ・過去の全国大会の他校の演奏のDVDを毎日部活が始まる前に流す
- ・自分達で録音を聞き返し、全員で意見交換
- ・1パート1人ずつの4人ペアを作り、発表会をして、お互いに批評する
- ・時間が空いていれば顧問にボイストレーニングを依頼し、スキルを高める

顧問にメニューを任せっぱなしにするのではなく、思いついたアイデアはなんでも先生に提案させていただきました。

そして、そんな高校生の意見に耳を傾けてくださった顧問の先生のお人柄も素晴らしいものがありました。

●喧嘩上等？意見をぶつけ合った同級生

当時、顧問が大切にしていたのは「とにかく部員同士本音でぶつかり合うこと」でした。
これは顧問の先生に対してもそうで、当時の私も先生に、今となっては失礼極まりないですが、様々なことをぶつ
けました。
泣いたり、喧嘩したり、怒って出ていったり・・・そんなことをたくさんしました。
ちょっと今となっては申し訳ないと思うこともあります。。

今思い返しても、先生のこの方針があったから、結果に結びついたと考えています。
この方針があったから、同級生たちとは何度もたくさん話し合いを重ねました。
だからこそ、今も高校合唱部時代の友人に対して、私は特別な思いがあります。

●出雲高校合唱部というライバルの存在

「島根は合唱王国」そんなことを言われますが、実は出雲の中学、高校も全国大会常連校だらけです。
私たちが県大会でコンクールを敗退した高校一年生の時も、出雲高校と出雲北陵高校が全国大会へ出場してい
ました。

「良きライバルが隣町にいるのに交流がないのは勿体無い！」

そう思った私は、「出雲高校合唱部の視察をしたい！」と顧問に伝えたところ、顧問が出雲高校合唱部に連絡して
くださり、同級生たちと出雲高校合唱部の見学をさせていただきました。

出雲高校合唱部にも顧問はいるのですが、ほとんど部活を部員だけで運営しており、それにも関わらず統率のと
れた練習をしていました。その自主性の高さ、演奏レベルの高さに圧倒されました。

その日以降、出雲高校と交流があった訳ではありませんでした。

しかし、中国大会で北高と一緒に出雲高校も全国大会出場が決定した時、お互いにおめでとうございます！とコン
クール会場のロビーで讃えあったことを今でも覚えています。

●全国大会で金賞受賞！

「やれることはやった！」

その自負は、多分誰もが持っていたと思います。

しかし、金賞を受賞できるとは誰も思っていませんでした。

「せめて銀賞になれたらいいね」そんな感じでした。

結果発表の「ゴールド金賞！」と叫ばれた時は、喜びの前に驚きだったのを覚えています。

しかし、少しずつ事態を把握し、抱き合っただけで喜んだのを覚えています。

ちなみに金賞は6団体に与えられ、その中では4番目の順位でした。しかし、全国金賞！というのは想像以上の喜
びでした。

●勉強へ専念するため、副部長交代と同時に退部

今となっては声楽に進んでいるので、私は「高校3年の引退まで部活をやっていたのだろう」と思われるかも知れま

せん。

しかし、実際は全国大会で金賞を受賞した翌月、私は部活を退部しました。

同級生たちは、その後一年間も部活を続けました。

私は部活をやっていると没頭してしまい、勉強と効率よくバランスを取ることは出来ないと判断しました。

今でも部活を辞めた日、みんなに最後の挨拶をして、部屋を出て1人泣いたことを今でも覚えています。

●一度勉強での進学を試みるも、音楽の道へ

その後、高校3年生は勉強での進学を目指し勉強にシフトしました。

今思い返すと、完全に音楽から離れたのは、中学生以降、この一年間だけでした。

高校2年生の時点で部活のことで頭がいっぱいだった私は思うような成績を残せませんでした。

様々なことがあり、島根大学に進学し、音楽教育について学ぶ四年間を過ごしたのち、

上京し、東京藝術大学へと進学します。

ここから先の話までしてしまうと、とても長くなってしまいますので、ここまでとしようと思います。

●今も背中を押してくれる、当時の自分

しかし、間違いなく言えることは、あの高校の2年間の体験は、今も私の心の真ん中にあります。

社会に出て厳しいと感じることや、辛いと思うこともあります。

そんな時、「日本一の努力を目指そう」そう言って、がむしゃらに過ごした高校生の頃の自分が、たまに私の背中を押して、「大丈夫、俺ならできる」と声をかけてくれることがあります。

そんな貴重な高校時代を過ごさせていただいた松江北高校、顧問、先輩、後輩、同級生は今でも感謝しています。

皆さんは、どのような高校時代を過ごされましたか？

このような経験をさせていただいた北高に、恩返しできるよう、これからも1人でも多くの方を音楽で力になれるように活動して参りたいです。

令和4年8月2日寄稿